ISSN 1343-1056

博物館ニュース「SHÛ」 NO. 54

"SHÛ" News of Tamagawa University Museum of Education

2020年3月20日　玉川大學教育博物館

目次

展覧会への招待……2
報告……3
開館カレンダー・
利用案内……6

小学体操図解

井上探景画　木版色刷

35.4 × 23.7 cm　明治19（1886）年

このおもちゃ絵には、明治期の子どもたちの体操の風景が描かれています。おもちゃ絵は江戸時代にうまれた子ども用の錦絵で、明治期に大流行しました。当時はまだ珍しかったであろう洋服や、華やかな和服を着た子どもたちが、亜鈴（あれい）や球竿（きゅうかん）を手にして欧米式の体操をしています。学校教育における体操は、明治11（1878）年、文部省がアメリカ合衆国からリーランドを体操教師として招き、体操伝習所を開設してから急速に発展していきました。体操が日本人の間で普及してくると、軽体操、兵式体操、戸外遊戯などの様々な様式の体操が生み出されていきました。

展覧会への招待

企画展「近代日本の学校体育と運動会」（仮称）
特別展示「新収蔵イコン展」（仮称）

東京オリンピック、パラリンピックの開催にちなみ、令和２（2020）年度は、企画展「近代日本の学校体育と運動会」（仮称）と、特別展示「新収蔵イコン展」（仮称）を同時開催いたします。

学校生徒体操<ruby>錺立<rt>かざりたて</rt></ruby>之図
（複製組立形）
明治 20（1887）年

「近代日本の学校体育と運動会」

企画展では、近代日本の進展における体育教育に着目します。学校体育と運動会の実際に焦点をあてて、明治、大正、昭和期にいたる学校体育の指導書や教科書、棍棒、<ruby>亜鈴<rt>あれい</rt></ruby>、<ruby>球竿<rt>きゅうかん</rt></ruby>といった教具や、体操や運動会が描かれた書籍、掛図、錦絵などの資料を通して、時代ごとの変遷や特徴を紹介します。

<ruby>亜鈴<rt>あれい</rt></ruby>（木製）

日本における学校体育は、明治５（1872）年に頒布された「学制」のなかで、下等小学の科目として「体術」が示されたことに始まります。翌年に体術は「体操」と名称が変わり、明治 11（1878）年には文部省が体操伝習所を設立し、体操指導法が教授されました。明治政府が主導した欧米型の体育教育は、武道や娯楽を中心としたそれまでの日本の運動法を大きく変えて、推進されていきます。

<ruby>球竿<rt>きゅうかん</rt></ruby>（木製）

運動会の開催もまた、近代日本の学校教育の特徴です。日本の運動会のはじめは、明治７（1874）年の東京・築地の海軍兵学寮で催された競闘遊戯会であると言われています。明治 10 年代は数校が集まり、共同で運動会が催されました。明治 20 年代になると運動会が全国的に普及し、徒手・亜鈴・球竿体操、旗奪い、旗拾い、綱引き、玉拾い、徒競走、高跳び、幅跳びなどの遊戯・競技系種目の他、兵式体操、隊列運動などの演習系を組み合わせたものもみられました。

展覧会では、こうした明治期を中心とした学校体育関係の資料を紹介します。

「新収蔵イコン展」

特別展示では、近年寄贈を受けたイコン（聖像画）を紹介します。新しくコレクションに加わったロシア・イコンとブルガリア・イコンの聖なる世界をご堪能下さい。

みなさまのご来場をお待ちしております。

ロシア・イコン「受胎告知」

企画展「近代日本の学校体育と運動会」（仮称）・特別展示「新収蔵イコン展」（仮称）

◆会　期　**2020年10月26日（月）～ 2021年1月17日（日）**

◆時　間　9:00 ～ 17:00（入館は16:30まで）　入館無料

◆会　場　玉川大学教育博物館　第2展示室

【関連行事】　学芸員によるギャラリートーク等を開催予定

※詳細が決定しましたら、当館ホームページやチラシ等でお知らせいたします

報　告

玉川学園創立 90 周年記念特別展「ジョン・グールドの鳥類図譜」の開催

玉川学園創立 90 周年を記念して、特別展「ジョン・グールドの鳥類図譜―19 世紀 描かれた世界の鳥とその時代」を、2019 年 10 月 5 日から 13 日まで東京芸術劇場（池袋会場）で、10 月 28 日から 2020 年 2 月 2 日まで当館（玉川学園会場）で開催しました。

19 世紀のヨーロッパでは、世界各地から集めた物珍しい動植物が人々の関心を呼び、標本の展示会が開かれ、実物大の絵に解説を付した図譜が多数制作されました。中でもイギリスの博物学者ジョン・グールド（1804-81）が制作した鳥類の図譜は、絵の美しさと学術的内容をそなえ、現在も高く評価されています。当館が所蔵する国内最大のグールド鳥類図譜コレクション 41 巻を 6 年ぶりに公開するとともに、公益財団法人山階鳥類研究所のご協力を得て、国内で初めてグールド鳥類図譜 44 巻を一堂に展示しました。

展示は、「鳥類図譜の成り立ちと技術」「グールドの鳥類学」「19 世紀の鳥類図譜」をテーマの中心として、グールドの鳥類図譜を中心に、同時代に制作された他の鳥類図譜、グールドのスケッチ、レイアウト画などによる図譜の制作過程や、今回の展示のために復元した石版画を用いた制作方法の解説、鳥類の進化の様子をグールドの図版で示した鳥類系統樹マンダラなどを展示し、グールドの世界を描きました。

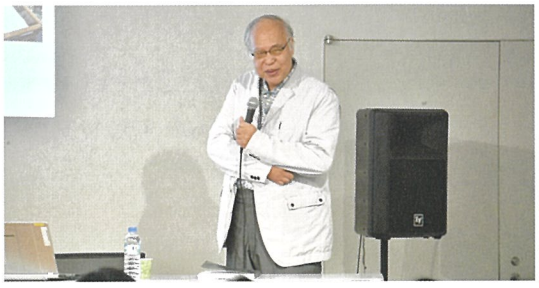
会期中の入場者は、台風による臨時休館があったものの池袋会場が 1,291 名、玉川学園会場が 2,697 名でした。

■上皇上皇后両陛下行幸啓

上皇上皇后両陛下には、10 月 11 日、展示をご覧のため、池袋会場へ行幸啓になりました。会場前で小原芳明学長等がお出迎えの後、当館の柿﨑博孝教授及び黒田清子外来研究員の説明を受けられながら、展示室を一巡されました。両陛下は、「エナガは御所のお庭にもいましたね」など、黒田研究員にお声をかけられながら、予定の時間を超えて展示を熱心にご覧になられました。

■シンポジウム「19 世紀のジョン・グールド鳥類図譜から今何がわかるか」（池袋会場）

10月8日、東京芸術劇場ギャラリーにおいて、シンポジウムを開催しました。前半は基調講演として、作家の荒俣宏氏に登壇いただきました。グールド作品との出会いや、19世紀の博物画と鳥類図譜の黄金時代の紹介、グールドとダーウィンの進化論やヴィクトリア時代の英国という文化背景を語る



様子に、聴衆は熱心に耳を傾けていました。

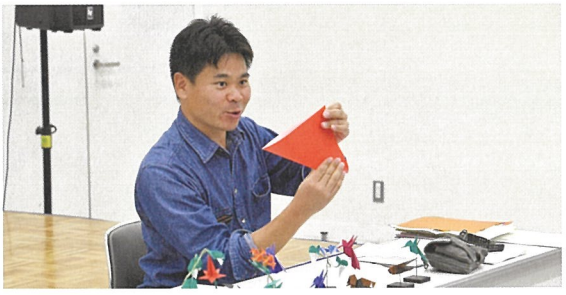
後半のパネルディスカッションでは、荒俣氏に加えて、今回の展覧会に特別協力をいただいた公益財団法人山階鳥類研究所所長の奥野卓司氏、本展覧会の企画から携わった黒田清子氏（当館外来研究員・公益財団法人山階鳥類研究所フェロー）、司会として当館の柿崎博孝教授が登壇しました。

奥野氏は、美と写実の共存や工房での合作というグールド鳥類図譜の特色を解説した後、同時代の日本・アジアでも同様の発想から描かれた博物画があったのではという問題提起をされました。江戸時代の「禽譜（きんぷ）」や「花鳥画」との比較から、日本人の生き物に対する考え方や描くための発想、技法などの特色を指摘されました。黒田氏は、グールド鳥類図譜の完成形ともいえる『イギリス鳥類図譜』からうかがえるグールドのこだわりとして、「情報の多さ」「ドラマ性のある図版」「鳥と人との関わり」をあげました。

主題となる鳥の形態以外にも巣やヒナ、生態を表す要素、背景となるイギリスの自然などが一枚の絵の中に、博物学的な情報として織り込まれていることや、既に絶滅していたオオウミガラスをあえて描き、人の手でかけがえのない種が絶滅することへのグールドの危惧と警鐘が含まれているのではないかと話されました。シンポジウムでは、グールドと、彼が活躍し博物学が大衆化して黄金時代を迎えた19世紀という時代について、様々な視点から意見が交換されました。

■関連行事（池袋会場）「折り紙で鳥をつくろう！」「グールドのトリヌリエ」「ギャラリートーク」

10月9日は折り紙作家の臼田隆行氏を講師に迎えて、展示されている図譜に描かれているハチドリなどを折り紙で作りました。ハチドリの特徴である羽根の羽ばたき方を折り紙で再現するための工夫などの解説があり、参加者は講師のアドバイスを受けながら、作品づくりに取り組みました。



翌日10日には、当館が所蔵している、彩色される前の墨刷版図譜の複製を用いたトリヌリエ（塗り絵）を、そして11日と13日にはギャラリートークを行いました。

■関連行事（玉川学園会場）「丘めぐり！ブラタマガワ」「リトグラフで鳥の絵に挑戦」「ギャラリートーク」

11月23日、玉川学園創立90周年に合わせて、学園の歴史にふれる「丘めぐり」を行いました。当日はあいにくの雨模様でしたが、90年の歴史が刻まれた学園のキャンパスを、学芸員が解説しながら巡りました。

12月15日と1月18日には、町田市にある「版画工房カワラボ！」から河原正弘氏と平川幸栄氏を講師に招き、グールドが制作した図譜と同じリトグラフ（水と油の反発作用を利用した平版画の一種）による、版画制作ワークショップを開催しました。

工程は、版に油分を含む色鉛筆で下絵を描き、アラビアゴム、灯油等で処理をした後、インクをのせてプレス機で刷ります。普段なかなか体験できない工程に、子どもたちはもちろん大人たちも熱心に制作に取り組みました。

また期間中には、学芸員によるギャラリートークを4回開催しました。

■博物館実習

通信教育課程「2月学芸員スクーリング」
2020年2月6日～11日　46名

統計（2019年4月～9月）

開館日数　115日　　**入館者数**　1633名

収集

〔資　　料〕	日本教育史	75件
〔図　　書〕	和書91冊	洋書0冊
〔定期刊行物〕	和雑誌	32冊
	洋雑誌	9冊

資料をご寄贈いただきました（順不同・敬称略　2019年8月～2020年1月）

城ケ崎　渚	教育史関係資料	1冊	鄭　來長	教育史関係資料	1冊
松田　吉正	教育史関係資料	2冊	杉山　武敏	教育史関係資料	1部
久保　陽子	学園史関係資料	2点	村林　一彦	学園史関係資料	1点

ありがとうございました

2020年度上半期　開館カレンダー

2020年4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

5月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8月

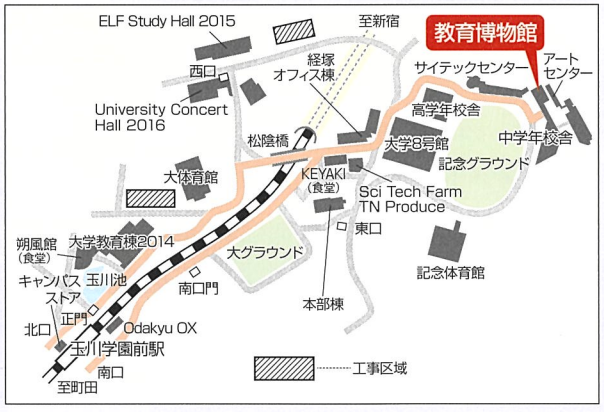
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

休館日　　第1展示室（日本教育史常設展示）のみ公開

※この予定は、大学授業・行事日程等により変更することがあります。
詳細は当館ホームページをご覧いただくか、電話等にてお問い合せください。



交通手段

小田急線「玉川学園前」駅下車 徒歩 15 分
駅南口を出て、線路沿いの道を新宿方向に進むと、玉川学園の校門（南口）に行き当たります。博物館の建物の位置は、校門の案内所でお尋ね下さい。
（来館者用駐車場はありません。校内での園児・児童・生徒・学生の安全のため、お車での来館はご遠慮下さい。）

利 用 案 内

開館時間　午前 9 時～午後 5 時
（入館は午後 4 時 30 分まで）

休 館 日　日曜日・土曜日・祝休日・玉川大学の定める休日・展示替期間
（展覧会会期中並びに日曜日・土曜日及び祝休日に大学の通常授業や学校行事が行われる場合、当館も臨時に開館することがあります。詳細はお問い合せください。）

入 館 料　無料

博物館ニュース SHÛ　No.54
2020 年 3 月 20 日
編集・発行　玉川大学教育博物館
〒 194-8610　東京都町田市玉川学園 6-1-1
TEL　042-739-8656　FAX　042-739-8654
www.tamagawa.jp/campus/museum/

『SHÛ』とは『集』、さまざまな「集められたもの」をめぐり、多くの人々の「集いの場」になることを目指して名づけたものです。